

本文書の目的の表明

世界作業療法士連盟(WFOT)は、作業療法士が文化と多様性に気づき焦点を当てることが増えていると認識している。これは、サービス提供が人中心アプローチであり、すべての人が参加のための平等な機会から利益を得るインクルーシブな社会を必要としていることと関連している。

本文書は、WFOTの「多様性と文化のガイドライン」(2009)¹から生まれたもので、国際連合(UN)の「世界人権宣言」と軸を同じくしている。

「すべて人は、人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上その他の意見、国民的若しくは社会的出身、財産、門地その他の地位又はこれに類するいかなる事由による差別をも受けることなく、この宣言に掲げるすべての権利と自由とを享有することができる。」(第2条, 1948)²

とるべきポジションの声明

WFOTは、自分自身と人々の信念、価値観、行い、存在の仕方に沿った実践をするという、すべての作業療法士のニーズを奨励する。(Hocking and Emery, 2002)³

作業療法にとってのポジションの重要性と作業療法の論点についての声明

作業療法は、すべての人が自分の作業遂行と社会への参加の際に、文化、社会、心理、生物、経済、政治、スピリチュアルという側面が、流動的に作用し合うものをまとめていくやり方において、唯一無二であることを認めている。

WFOTの倫理綱領⁴では、作業療法士はサービス提供する人の文化的多様性、ライフスタイル、捉え方を考慮する責任があると述べている。

WFOTは、多様性と文化に関連する4原則を支持する。

1. 多様性の問題: 研究エビデンス
2. 人権とインクルージョンの問題: 作業, 参加, 文化的意識, 感受性
3. 言語の問題: 言葉の力
4. 能力の問題: 態度, 知識, 技能

社会とクライアントにとってのポジションの重要性についての声明

作業療法は、すべての人が自分の作業遂行と社会への参加の際に、文化、社会、心理、生物、経済、政治、スピリチュアルという側面が、流動的に作用し合うものをまとめていくやり方において、唯一無二であることを認めている。

次の方法で、本文書の原則が遵守される

- 人々の状況的多様性についての作業療法士と作業療法学生の気づき
- インクルーシブで文化的に安全な作業療法実践

結論

WFOT 声明書は、作業療法士と作業療法学生による「多様性と文化のガイドライン」(2009)の遵守を奨励するための方法と行動として次のことを提案する。

1. 多様性と文化を認識する。
2. 各個人それぞれの文化を尊重する。
3. 自分たちの実践を超えたものに対して、有能に対応する。
4. 教育, 実践, 研究において、作業療法の知識, 技能, 態度の中にこれらの原則を組み入れる。

文献

- 1 Kinébanian, A., Stomph, M. (2009): Guiding Principles on Diversity and Culture. WFOT. www.wfot.org
- 2 United nations (1948): The Universal Declaration of Human Rights (Article 2). www.un.org
- 3 Hocking, C., Emery, I. (2002): NZAOT Presentation to the WFOT 50th Anniversary Celebration (Stockholm), New Zealand Association of Occupational Therapists (NZAOT), unpublished.

<https://www.wfot.org/resources/diversity-and-culture>

(2019年11月22日 吉川ひろみ・訳)

4 WFOT: Code of Ethics (revised 2005). www.wfot.org